

平成21年10月1日  
京阪電気鉄道株式会社  
中之島高速鉄道株式会社

## 開業1周年を迎える「中之島線4駅」と「3000系車両」が 『2009年度グッドデザイン賞』を受賞！

中之島高速鉄道株式会社（本社：大阪市中央区 社長：坂本富司雄）が建設・保有主体、京阪電気鉄道株式会社（本社：大阪市中央区 社長：上田成之助）が運行主体として昨年10月19日（日）に開業した中之島線4駅（中之島駅、渡辺橋駅、大江橋駅、なにわ橋駅）と、同日から運転を開始した京阪電車3000系車両が、財団法人日本産業デザイン振興会が主催する「2009年度グッドデザイン賞（Gマーク）」をそれぞれ受賞しました。

今回グッドデザイン賞を受賞した「中之島線4駅」は、水に囲まれた「水都大阪」復活の拠点として、また大阪の文化・ビジネスの中心地としての特長を持つ“中之島エリア”のシンボルにふさわしいデザインとし、中之島エリアの魅力向上に寄与する駅施設をめざしました。また、「3000系車両」は、中之島線開業のシンボルとして、同車両が結ぶ中之島と京都の特徴をデザインテーマに盛り込むとともに、次世代の京阪電車のイメージリーダーの役割を担う車両として、既存車両とは趣の異なるデザインとしました。

京阪グループでは、経営ビジョン「“選ばれる京阪”への挑戦」に基づき、次の時代に向けた新しい京阪ブランドづくりを進めており、今回グッドデザイン賞を受賞した「中之島線4駅」と「3000系車両」はその象徴とも言えるものです。今後も引き続き、京阪ブランドの確立に努めるとともに、さらなる京阪エリアの魅力向上に取り組むことで、もっと多くのお客さまに住んでいただける、訪れいただける京阪エリアを実現していきます。

概要は別紙のとおりです。



3000系車両



中之島線 なにわ橋駅コンコース

(別紙)

## 「グッドデザイン賞」受賞の概要

### 【中之島線4駅(中之島、渡辺橋、大江橋、なにわ橋)】

**概要** 中之島線は、平成20年10月19日に開業した営業距離約3.0kmの鉄道路線。建設にあたっては「償還型上下分離方式」が採用され、中之島高速鉄道(株)が施設保有し、京阪電気鉄道(株)が列車運行を担当。駅デザインのテーマは『水都大阪のゲートステーションの構築 水辺への導入空間』。4駅の共通コンセプトとして、川面を流れる「水」を象徴する素材として「ガラス」を、また公園の木々や街路樹などを表現するのに加え、国際都市があるがゆえに求められる「和」の感覚や、「大人の街」中之島を象徴する素材として「木」を用いています。また、各駅のホーム壁には、それぞれの街を代表する素材を使用することで差別化を図り、車窓からの風景を演出しています。

**評価内容** 中之島線は堂島川と土佐堀川に囲まれた東西3キロ程に、京阪本線からの乗り入れや多くの鉄道との連携により、今後大阪の行政、経済、文化の中心的役割を果たす都市のインフラとして期待されている。川沿いに建つ4つの駅は地上の出入り口部分、そして地下のコンコースから改札、ホームに至る環境はシンプルな表現ながら天然木などを使用して高い質感と表情を出し、景観との調和を達成している。特に煩雑になりがちなサイン、ファニチャー等情報掲出のまとめ方は、機能性もさることながら独自性にも優れ、今後の公共交通のあり方を示唆するものである(財団法人日本産業デザイン振興会 公開コメント)。



## 【3000系車両】

### 概 要

中之島線開業にあわせて導入した車両で、主に、中之島と京都を直通で結ぶ「快速急行」として使用。車両全体の基本デザインコンセプトは、世界的なブランドである京都と、大阪の文化ゾーンである中之島を結ぶという当社沿線の風土である「文化・風情」の香りに、「現代的感覚」を融合させた「風流の今様」としました。外観は、「風流の今様」を具体的に表現するため「花鳥風月」、特に月をモチーフとし、フロントフェイスに円弧状のデザインを取り入れています。京阪グループブランド戦略による鉄道車両のカラーコンセプトに則り、水都大阪を意識させると同時に京のれんや紺袴など伝統と格式を感じさせる紺色をメインカラーとし、都市のきらめきや石庭における川の流れを表すように、銀色の帯と白色を加えました。車内は、月をモチーフとした円弧を造形に取り入れ、配色はメインカラーを濃紺とし、サブカラーには桜鼠(さくらねずみ)、墨を用い、アクセントカラーとして橙を配しています。また、座席の表地に座り心地が良くソフトな手触りが特長の「エクセーナ」(東レ(株)の最高級スエード調マイクロファイバー素材)を鉄道車両で初めて採用し、高級感を演出しました。

### 評価内容

変更できる個所を最大限生かし、デザインテーマを継承しながらダイナミックに変更し新しいイメージを作り出している。インテリアも大胆なテーマを生かしながら細かなところまで行きとどいた造形をしている点は評価に値する(財団法人日本産業デザイン振興会 公開コメント)。





## 【ご参考】京阪電気鉄道㈱における過去のグッドデザイン賞受賞実績

### 宇治駅（平成8年度受賞）

平成7年竣工。鉄筋コンクリート造2階建（一部3階）で、モノトーンにまとめられた切り妻の瓦屋根と採光用の連続した丸窓が特徴。「近畿の駅100選」にも選ばれている。

### プラットボーイ（平成9年度受賞）

平成9年に登場した駅構内のワゴン販売台。ワゴンから販売員のユニホームまでトータルでデザインした。駅構内のスペースを有効に活用し、サービス向上とにぎわいのある駅環境を演出。

## 【ご参考】グッドデザイン賞について

「グッドデザイン賞（Gマーク）」は、1957年に通商産業省によって設立された「グッドデザイン選定制度」を継承し、1998年より財団法人日本産業デザイン振興会の主催事業として運営される、日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨制度。これまで50年以上にわたり、新しい時代の文化と生活を創造することを目的に、「より豊かなライフスタイル」と「良いビジネス」を導く運動として展開され、今日では国内外の多くの企業や団体が参加しています。また、「グッドデザイン賞」受賞のシンボルである「Gマーク」はすぐれたデザインを示す象徴として広く一般に親しまれています。



以 上